

Ⅲ 会報第2号にむけて

新会長のもとで充実した第2号が年内にも発行されることと思います。

会員の“権利”として、どなたでも投稿をしていただきたく存じます。例えばつぎのような記事を：1. 水草についての随想 2. 水草の伝説・伝承・民話・文芸など 3. 水草の利用（衣食住・医療・園芸・生け花など） 4. 水草と環境・生態系（水系保全，自然保護など） 5. 教材としての水草 6. 調査・研究の報告 7. その他，水草についての諸情報・資料などなんでも。

Ⅳ 水草との因縁（原田市太郎）

昭和15年、東大での卒業研究のときから。ヘロビエ（沼生群）という単子葉水草が材料（ヒルムシロ科，オモダカ科，トチカガミ科など約7科）。指導教授篠遠先生（当会員）は昭和のはじめにクロモの性染色体を研究されました。

私はそれまで、ヘロビエといってもカナダモぐらいしか知りませんでした。京大の三木博士のところへ行って、どこにどんな水草が生えているかを教えていただいて採集を始めました。

ことのついでに、ヘロビエ以外の水草も採集しては染色体や花粉のことを調査しました。

研究の目的は染色体のことであり、水草は単なる材料のつもり。水草の染色体に何か面白いことはないか；染色体からみたヘロビエの分類系の考察。これらのことは、別に書きます。

いわゆる水媒花の花粉形成と受粉にも興味をもちました。海生の水草（いわゆる“海草”〔海藻ではない〕；すべてヘロビエに分属されている）の調査につとめました。いつか会報に書かせていただきます。

とにかく大分前から、水草の細胞学のことよりも水草全般について“なんでも”興味をもつ“水草野郎”になりつつあります。

Ⅴ 食にかかわりある水草（原田市太郎）

大滝氏の日本水生植物図鑑を頁を繰って追いますと、なんらかの意味で食にひっきり有る水草は次の如し：アサザ[☆]，セリ[☆]，ヒシ[☆]，ワサビ[☆]，オランダガラシ[☆]，バイカモ[☆]，ジュンサイ[☆]，コウホネ[☆]，オニバス[☆]，ハズ[☆]，キショウブ[☆]，コナギ[☆]，ミズアオイ[☆]，ミジンコウキクサ[☆]，クログワイ[☆]，アシ[☆]，マコモ[☆]，オモダカ（クワイ[☆]），アマモ[○]，シバナ[○]，ガマ[○]，ヒメガマ[○]，ミズワラビ[○]。氏の解説は大変面白く有益；博識ぶりにおどろきます。

☆印をつけたものは、どなたもご存知のところ。私は、イネは水草であると考えています。若下の蛇足を：—

(1) アマモ（アジモ[○]）の地下茎は海底の砂地を浅くほ伏して走ってまして、節から葉が海中へ出ています。その節と葉の基部は黄白色で、そこが甘い味をする。

昭和17年に朝鮮南部へ行ったとき、漁村でアマモのその部分を切り取って束にしたのが路傍で